

ネパールの今、そしてこれから
～知ることから始めるネパール支援～

2015年9月30日 18:40-21:15

「飛んでけ！車いす」の会事務所

出席16名（内部4名）

1. ミーティングの主旨説明

理事 下村 朋史

重量やサイズが厳しくなって、「気軽に」運べなくなったという現状。
一方、活動は広がり、世界中に広まっている。具体的なニーズが届く。
ネパールで4月に地震。1週間で記事は消えたが、協力要請は来ている。

2. 講師によるお話

1) ネパール一般事情

元 JICA 看護師 清水 直美さん

めずらしい、三角の旗。標高 3500mまで人が住んでる。2015年9月に新憲法制定。
政治的には不安定。貧困層（1日2ドル以下）が70%の後開発途上国。
いなかは昔と変わらない生活。ヒンドゥー教がメイン。食事は1日2回。
100民族いるが、ネパール語は共通の言語。

今回の地震について 地震後に訪問したネパールの様子

80年ぶりの地震。4/25日に1回目の地震。ゴルカ地方。5/12に2回目。コダリ
地方。マグニチュード7.8くらい。山間に道路があり、家がつぶされた人は、
まわりにテント生活。カトマンズは古い建物が多く、つぶれた。2か月目には
水が出ていた。竹を渡して、それに石をのせて抑える屋根～すぐ壊れる。王宮
付近は壊滅。高層住宅は亀裂が入った。避難所の横で田植えをする人々。サンガ州
のリハビリセンター。地震後、50床から150床になった。病院の車いすは持って
帰れない。貧富の差ははげしい。鉄筋の建物は壊れていない。

2) ネパールの福祉、障がい者事情

元 JICA 理学療法士 木原 由里子さん

2780万人のうち10%が障がい者。前世で犯した罪で障がいになると言われて
いた場合もある。山岳地帯はインフラが整備されていないので、都市部への
集中がある。車いすの利用もしているが、行動には市街部に限られる。
専門病院もあるが、値段が高い。3日間もかかって患者を運ぶ場合もある。
公共交通はバスは観光バス型。ワゴン車タイプ。車いすでは乗るのは困難。
車道のほうが走りやすい。あまり車いすはみかけない。車いすでなくても
工夫して作る。あるものを使う。狭い土地に縦長に作るので、台所は4Fとか
にある。＝食堂に行けない。ので、施設から家に戻れない場合もある。簡易いす
に車をとつけたものもある。板の組み合わせなどだけもある。アルミ
製のウォーカーケーンをまねて藤細工で作っている。

3. 休憩とお茶の時間

4. ネパールプロジェクト作り

司会進行 下村

現地から飛んでけへの要請内容、その他情報 (別紙参照) 吉田

以下は話す時間は全体ではなかった

目標作り

予算の試算

資金集めのアイデア

感想

吉田さん IT のことで青年海外協力隊でネパールにいた。時間はあります。

高野さん カレー屋さんでネパール人と知り合う。出稼ぎに来ている人のサポートの会を立ち上げた。

知り合いも多いので、ネパールに戻るときに持って行ってもらいたいとは思っている。通訳、翻訳してくれる人はいる。ネパール語で情報流せる。

福山さん カトマンズ近郊に学校を作った。4回目の訪問です。

安積さん 2011年まで国立市で自立センター運営。パキスタンのハビブさんの兄のところへ11月に行く。ピアカウンセラーとして活動、アジアでもやりたい。神戸のリングリングで同じ障がいの女性と会った。日本でも座敷牢にいた時代もある。アジアの障がい者の生活向上に尽くしたい。

アシスタント ネパールにいった友人がいた。お金ためたら、車いすを持っていきたい。

牧野さん 学生だが、できることをしていきたい。

井下さん インターンシップです。まだわからないので、何ができるか考える。

由里子さん西嶋さんと活動していた。FBで発言を読んでいる。一緒にできることもある。体に合った車いす、使用状況にあった車いすの選定など。3月に行く。

直美さん ネパールのOB会は500人を超えている。OB会でも継続的に支援する。NGOで活動している人からも情報がある。札幌周辺でも7人がいる。情報共有可。

穰さん ネパールの勉強ができた。

島田くん 半年ぐらいしか経ってないのに、関心が薄れて、残念だった。今回、話が聞けてまたやらなければいけないことがわかった。これからどうしていくのか考えていかなければいけないと。

みちよ いろいろつながりができてきたので、情報を共有して、発信したい。また、場を設けるときにもぜひお手伝いください。自分ができることやアイデア募集しています。

下村 知恵や工夫を合わせて、戻ってきた後の報告の場などを通して、また続けていきたい。